

資史料館の見学会が行われました

博物館資史料館部門 特命教授 広瀬 茂久

所狭しと並んだ書棚。ここに本学の歴史を物語る重要な書類が収蔵されていきます。昨年スタートした資史料館が公文書管理法で定める「国立公文書館等」(国立公文書館に類する機能を有する施設)として内閣総理大臣の認定を受けるために、本館奥の4階部分(旧々図書館の館長室だった所)を改修し、公文書室が設置されました。このように、法人文書のうち重要なものを「特定歴史公文書等」として収蔵していくための施設(公文書室)が整いましたので、これから内閣府公文書課に申請をし、法律の要件を満たしているか否かの審査を経て、2015年4月から正式に稼働することになります。



資史料館内の公文書室 左奥が湿度調節装置

各部局の文書管理者及びそれを統括する総括文書管理者(事務局長)と資史料館との密接な連携のもとに、重要な法人文書を公文書室に移管・保存し、必要に応じ公開していくこととなりますので、早めに、この仕組みと流れを関係者に認識していただくために、標題のように5月27日に内覧会を開きました。部局長等会議の終了後に3グループに分かれて見学して頂きました。学長はじめ多くの方々に参加いただきましたので、“百聞は一見に如かず”で資史料館と公文書室の存在と役割をご理解いただけたのではないかと思います。この見学会の開催に際し、広報・社会連携課、施設運営部、及び総務課の方々に多大なご協力を頂きました。博物館関係者を代表してお礼申し上げます。

書棚の総延長は約340メートル(0.9m×382段)。こう言うと余裕がありそうですが、長期にわたって収蔵していきますので、1年あたり、せいぜい3メ

ートル程度となります。しかも、公文書室に入れたものは、基本的には廃棄できませんので、厳選されたものみの収蔵となります。他の保存すべき刊行物や冊子体等は比較的管理が簡単な資史料館の一般書庫(今後整備拡充予定)に保存し活用していきます。



資史料館内の閲覧・事務室

役員や部局長の皆さんは好奇心が旺盛で、屋上に出てみようということになりました。本館の屋上には設置されたばかりの太陽光発電パネルがずらっと並んでおり、図らずも、新設の太陽光発電パネルの見学会ともなりました。昨年度(2013)に行われた「大岡山団地 太陽光発電設備等設置工事」の一環として設置されたもので、工事全体では756kW、そのうち本館の屋上分は112kW(一般家庭約30軒が使う電力量に相当)の発電量とのことでした。総工事費は約7億6千万円(内、本館屋上分は約5千万円)。



本館屋上の太陽光パネル 左奥に時計台が見えている

資史料館(博物館の資史料館部門)では、文書類の収集整理の傍ら、「とっておきメモ帳」や「発掘! 東工大の研究と社会貢献」などのシリーズものを刊行し、話題を提供し続けていきますので、ご期待ください。